

みんなのた場



桃生地区・中津山

西條沙紀ちゃん (8歳・中津山第二小2年)

練君 (5歳)

杏美ちゃん (1歳)

豊かな自然とのどかな田園が広がる桃生地区で、すくすくと成長する西條家の3人きょうだいです。

弟と妹を優しく見守る沙紀ちゃんは長女らしくしっかりしており、憧れの職業は看護師です。明るく活発で、いつも友達に囲まれています。

4月の小学校入学が楽しみ。の練習は「いっぱい勉強して、いっぱい遊びたい」と胸を躍らせます。将来の夢はバドミントン選手で、オリンピック出場が目標といいます。2人はお風呂掃除や片



▶とても仲の良い3人です。

明るい笑顔が絶えない毎日



「県の石」雄勝石

生涯学習課

平成28年5月、日本地質学会では、各県に特徴的に産出あるいは発見された岩石・鉱物・化石を選定し、「県の石」としました。県では鉱物の部で涌谷町の砂金、化石の部で南三陸町のウタツギヨリユウ、岩石の部で石巻市の雄勝石が選ばれました。

雄勝石は古生代二疊紀(約2億9000万年前)〜約2億5000万年前。ペルム紀ともいう)中生代三疊紀(約2億5000万年前)〜約1億9000万年前)の地層から産する良質の黒色

硬質粘板岩で、雄勝地区と登米市の一部の範囲で産出されます。粒子が均質できめ細かく、光沢があり、変質しづらい等の特性から、古くから硯の原料として用いられてきました。良質の雄勝石から生み出される雄勝硯は国の伝統的工芸品に指定されています。現在では雄勝石を加工した食器や花器等も製作されています。

明治時代から大正時代にはスレート材として多くの建物の屋根葺きに採用されました。石材の品質と形状を見極め、加工して

葺上げるためには熟練を要します。その技術をもつ佐々木信平さん(水押)は平成17年に選定保存技術「石盤葺」保持者に認定され、東京駅丸の内駅舎等の文化財建造物修理等で活躍しています。

なお雄勝硯伝統産業会館は、雄勝硯の歴史や文化、人と硯の関わりを知る事ができる国内唯一の硯の展示施設でした。残念ながら東日本大震災で被災しましたが、展示、收藏していた資料は全国の



▲救い出された雄勝硯伝統産業会館所蔵の硯

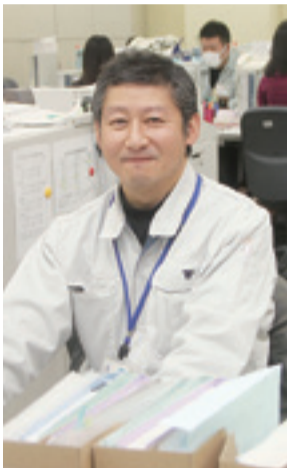
博物館等の協力によって救い出されました。

キラッとパチリ

ともに再び石巻支援へ

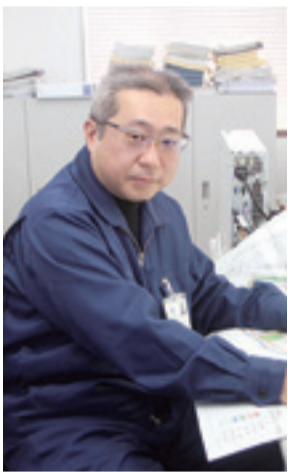
前田さんは平成27年4月に石巻に着任しました。震災後の平成23年7月にも仮設住宅建設のため2週間ほど応援に来ており、今回は4年ぶりに石巻市での勤務になります。主に復興公営住宅の機械設備工事等を担当しており、日和が丘の寿楽荘

や三ツ股地区の公営住宅建設にも携わりました。神戸市出身で、阪神淡路大震災で被災した建物の復旧や応急仮設住宅の建設等の経験もあります。「復興に向けた両市の姿は、歳月を超えて重なるものがあります。神戸で経験した事を思



建築課

前田倫伸さん 45歳
兵庫県神戸市から派遣



区画整理第2課

武田憲和さん 43歳
鹿児島県鹿児島市から派遣

い出しながら業務に当たっています」と使命感を語っていました。昨年4月に着任した武田さんも、平成24年10月から半年間、石巻市での派遣を経験しており、今回で2回目となります。主に被災した市街地の復興土地地区画整理事業に当たり、施工計画策定や現場管理業務を担当しています。

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」

日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課あて

にお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

☎ 秘書広報課(内線4784) 〒986-8501(住所不要)

✉ ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題

雄勝地区



12月22日(木)
波板地域交流センター

親子で楽しくクリスマス

子育て支援事業「キッズ広場」の一環としてクリスマス会が行われました。0歳から3歳までの未就学児童10人と保護者が集い、リース作りやピザ作り等で楽しいひとときを過ごしました。地元の皆さんがサンタクロースに変装して登場すると、子どもたちは驚きながらも大喜びし、大きな白い袋から出てきたたくさんのプレゼントを笑顔で受け取っていました。

河北地区



12月29日(木)
上品の郷 農産物直売所「ひたかみ」

地元の特産品が大人気

道の駅上品の郷でみそか市が開かれ、多くの人たちで活気づきました。12年目を迎え、年末恒例のイベントとして定着しています。旬のセリやお正月に欠かせない焼きハゼ、新鮮な農産物等の地元特産品が並び、訪れた人たちはお目当ての品を買い求めていました。また、豪華な景品を取りそろえた抽選会もあり、当たりが出ると店内には明るい声が響きました。

桃生地区



12月18日(日)
高須賀定住センター

世代越えて一緒に親子三代福祉大会

高須賀地区の多世代交流イベント「親子三代福祉大会」が開かれ、小学生から80代まで幅広い世代から約70人が参加しました。地元のさまざまな団体が協力して開く、今年で24回目となる恒例行事です。老人クラブの皆さんが子どもたちにわら縄づくりを伝える体験会や交通安全講話、レクリエーション、会食等の盛りだくさんの内容で、皆で楽しい時間を過ごしました。

河南地区



1月11日(水)
河南老人福祉センター

世界に一つだけの器に感激

陶芸教室で「初窯開き」が行われ、受講生の皆さんが昨年末に手掛けた作品の仕上がりを確認しました。2年間で技術を習得する陶芸教室では現在、16期生11人が交流を深めながら創作活動に励んでいます。また修了者たちもサークルを作って活動を継続しており、初窯開きには合わせて約40人が出席しました。窯から食器、花瓶等の作品が運ばれると、完成を喜ぶ声が上がっていました。

牡鹿地区



12月19日(月)
鮎川郵便局

地域に幸せと笑顔を配達 鮎川郵便局が移転新築

震災の津波で局舎が全壊流失し、仮設での営業を余儀なくされていた鮎川郵便局の新局舎が完成しました。営業開始を祝った式典で佐々木和弘局長は「多くの支援で今日を迎えました。鮎川地区の復興は道半ばですが、地域への恩返しとして社員一同全力で取り組んでいきます」と決意を語りました。その後のテープカットでは、皆で5年9カ月越しの新たなスタートを喜び合いました。

北上地区



10月20日(木)~12月22日(木)
にっこりサンパーククラブハウス

花に親しみ心も明るく

北上公民館事業のフラワーアレンジメント教室が5回にわたり開催されました。女性9人が受講し、講師に迎えた三浦よし子さんから飾りつけの基本等を学びました。さまざまな花材を組み合わせて作品を仕上げた受講生たちは「最初は難しかったのですが、先生の指導で上手に出来ました」「皆で楽しく学べました。機会があればまた参加したいです」と感想を語っていました。

石巻地区



1月5日(木)
市総合体育館

鍛え上げる心技体 1万人寒稽古

県公立武道館協議会と市教育委員会主催の1万人寒稽古が開かれ、市武道協議会に加盟する競技者約140人が稽古に励みました。酷暑を克服してたくましい体力と気力を養う目的で毎年開催されています。空手では動作の基本となる形を整え、柔道は技を磨き合い、なぎなたは作法を確かめていました。参加した皆さんはそれぞれに一年の目標に向かって心身を鍛えました。

石巻地区



12月24日(土)
石巻中央公民館

一文字に心をこめて小学生チャレンジ書き初め

小学生を対象に「チャレンジ書き初め」が行われ、午前と午後の部に合わせて約100人が参加しました。冬休みの宿題として書き初めに取り組む子どもたちが多いことから、書道家の先生を迎えて毎年実施しています。講師やつくも大学書道クラブの皆さんが、毛筆や硬筆での書き方のコツや注意点等を丁寧に指導すると、子どもたちは素直に吸収し、力強い作品に仕上げていました。